

5/17 福日

県被団協45年活動に幕

福井県内の被爆者やひいの里原爆
被害者団体協議会（県被団協）「よこ

「すいせん会」



会員減、高齢化で今月解散 山岡会長「語り部は続ける」

が、近年は東京への出張費も出せず、日本原水爆被害団体協議会（被団協）の会議も欠席が続いている。広島に原爆が投下された1945年8月6日、山間さんを負うもいた母は爆心地から3・5km離れた自宅にいたが、夫を捜しに2回地元まで近づいた。勤農学徒として働いていた兄＝当時(13)＝は黒焦げの遭体で見つかったという。

すいせん会の会員は現在、被爆2世の6人を含め23人。山岡さんが会長に就任した2014年の52人から半数以下に減り、県内被爆者の平均年齢は85歳に達している。

の福井3会場には入かず、立入り、健康状態が悪化すれば助言してきた。月1回福井市のハピテラスで核兵器廃絶の署名運動を行い、「最も腹立たしい行為」に優勝したロシアが核兵器を使用を示唆したことに対し抗議行動も行った。

解散後も被団協と県内被爆者の架け橋であつ続けようと、「すこせん会」の名前は残す。会員には被団協

各県で解散や休会が相次ぎ、福井の解散で35都道府県になる。

「今後も要請があれば、語り部として」といっても由向へ」と力を込める三國さん。「偏見を恐れ、被爆者だけにこだわらず民間に親し通じてこられる人は何人もいた。放射能被害や苦しみは永遠に続く。私たち被爆者が語る」とが一番伝わる。語り部の依頼は山間さん=お

29歳の時に妻の家族がいた大野市に移住。定年退職を機に66歳ですこせんぐ

から直接連絡が届き、地方組織への連絡は山間や
人に通じるようになります。

大野市内

広島に原爆が投下された
1945年8月6日、山間
地帯を駆けめぐらした母は
爆心地から約1.5km離れた
自宅にいたが、夫を探しに
2kmほど駆け抜けた。轟
風学徒として倒れていた兄
=朝賀(13)=は無意識の過
体で見つかったといふ。